

平成27年度以降入学生

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔医学部(保健学科) 理学療法学専攻〕

| | |
|--|--|
| プログラムの名称（和文） （英文） | 理学療法学プログラム Physical Therapy Program |
| 1. 取得できる学位 学士（保健学） | |
| <p>2. 概要</p> <p>保健学科理学療法学専攻が提供する教育プログラムは、国内はもとより国際的にも保健・医療・福祉などの幅広い分野で活躍できる理学療法実践者にふさわしい豊かな人間性と教養を培い、専門職となるための基礎的知識、技能、態度を修得し、さらに科学的思考力と創造性に富んだ理学療法士になることを目指すものである。理学療法を通じて人と社会のために働く人材を育成し、社会貢献することが本プログラムの大きな意義である。卒業時に下記の基本的知識、基本的技能および基本的態度・習慣の全項目を習得することを目標とする。</p> | |
| <p>3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）</p> <p>理学療法学プログラムでは、専門職の理学療法士としての基礎知識、技能、態度を修得し、さらには科学的思考力と創造性を発揮しうる人材を養成する。</p> <p>そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる129単位を修得した学生に「学士（保健学）」の学士を授与する。</p> <p>プログラムの到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 理学療法の基礎となる基礎医学の理解により、理学療法の土台を築くことができる。 (2) その土台の上に立ち、理学療法の対象疾患・患者を理解できる。 (3) それらの知識を活用し、自ら問題を発見し追求・解決することができる。 (4) それらの知識を活用し、理学療法士として必要な実践的な解決能力・技能が身に付いている。 (5) 安全性や倫理性に配慮した患者中心の理学療法を実践することができる。 (6) 患者や医師、メディカルスタッフに信頼される人間関係を構築できる。 | |
| <p>4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）</p> <p>理学療法学プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実践する。</p> <p>・1年次には、教養教育科目を通して教養、基礎学力の醸成を行うと同時に、専門基礎科目である「人間発達学」「人体構造学I」「生理機能学I」「リハビリテーション概論」、さらに専門科目である「理学療法概論」も開講され、理学療法的発想のもとで問題の発見と解決に向けた探求の基本姿勢を育む。</p> <p>・2年次には、理学療法学の学問的背景や基礎となる授業が中心となり、主に「人体構造学」「生理機能学」「身体運動学」「リハビリテーション整形外科学」「リハビリテーション精神医学」「リハビリテーション神経内科学」など必修科目が開講され、これらの科目を通して専門分野の基礎知識と技能・態度を修得する。</p> | |

・3年次には、主に「臨床運動学」「機能能力診断学」「運動系理学療法学」「物理療法学」「補装具学」「生活技術学」などの専門科目が開講されており、理学療法を展開するために必要となる、情報の収集・評価・報告および根拠に基づいた治療に関する基礎知識と技能・態度を修得する。さらに、2度の短期臨地実習が計画されており、学問分野と実務との関連についての理解を深め、より具体的な課題への取り組み方について学ぶことができる。

・4年次には、長期の臨地実習が計画されている。3年次までの教育課程で学んだ知識、技能、態度と理学療法過程を、実習施設において指導者による指導を受けながら理学療法の実践を行い、実践に適合した知識、技能、態度の統合を目指す。こうした経験を重ねることで、保健・医療・福祉に関わる理学療法の専門職としての資質と自覚を高める。また卒業研究を通して、専門的な問題を理解・整理し、調査や分析、実験などに基づき解決するための能力を身に付け、理学療法学の学問として意義と重要性についても学ぶ。

5. 開始時期・受入条件

1年次（入学時）から理学療法プログラムは開始される。学生は、入学時に次に定める高校までの履修科目に習熟していることを想定している。不十分なものは、以下の基盤科目の履修を必須とする。

科目名：数学基礎概論、初修物理学、初修生物学

広島大学在学の全学の学生に対しては転学部、または転学科の規定に基づき別途定める。

本プログラムの定員（受け入れ上限数）は**35名**である。

6. 取得可能な資格 理学療法士国家試験受験資格

7. 授業科目及び授業内容

(1) 授業科目名（プログラムの構造別に科目名を列挙）

【専門基礎科目】

A 人体の構造

- (1) 人体構造学Ⅰ
- (2) 人体構造学Ⅱ
- (3) 人体構造学実習Ⅰ
- (4) 人体構造学実習Ⅱ

B 生体の機能

- (1) 生理機能学Ⅰ
- (2) 生理機能学Ⅱ
- (3) 生理機能学特論
- (4) 生理機能学実習
- (5) 栄養学

C 病因・病態

- (1) 病理学
- (2) リハビリテーション内科学Ⅰ
- (3) リハビリテーション内科学Ⅱ
- (4) リハビリテーション整形外科学総論
- (5) リハビリテーション整形外科学各論
- (6) リハビリテーション神経内科学

(7) リハビリテーション精神医学総論

(8) リハビリテーション精神医学各論

D 身体の発達と障害

(1) 人間発達学

(2) 発達障害学

(3) 外科系障害学

(4) 老年期障害学

E リハビリテーション医学

(1) リハビリテーション概論

F 英語によるコミュニケーション能力

(1) 保健英語

G 統計学的解析能力

(1) 応用統計学

【専門科目】

A 理学療法をとらえる

(1) 理学療法概論

B 身体運動システム

(1) 基礎理学療法学

(2) 身体運動学

(3) 臨床運動学

(4) 身体運動学実習

(5) 臨床運動学演習

C 身体徴候・機能診断

(1) 機能能力診断学

(2) 機能能力診断学特論

(3) リハビリテーション診断学

(4) 小児機能診断学総論

(5) 小児機能診断学各論

(6) 機能能力診断学実習

D 理学療法技術

(1) 小児神経系理学療法学

(2) 小児神経系理学療法学演習

(3) 運動系理学療法学

(4) 運動系理学療法学実習

(5) 成人神経系理学療法学

(6) 成人神経系理学療法学演習

(7) 内部障害リハビリテーション学

(8) 内部障害リハビリテーション学実習

(9) 生活技術学

- (10) 生活技術学実習
- (11) 生活環境制御学
- (12) 生活環境制御学実習
- (13) 物理療法学
- (14) 物理療法学実習
- (15) 補装具学
- (16) 補装具学演習

E スポーツ医学・理学療法

- (1) スポーツ医学総論
- (2) スポーツ医学各論
- (3) スポーツ外傷理学療法学総論
- (4) スポーツ外傷理学療法学各論
- (5) コンディショニング科学
- (6) トレーニング科学
- (7) スポーツ外傷理学療法学実習

F 保健・社会医療システム

- (1) 社会福祉学
- (2) 地域理学療法学

G 臨床実習

- (1) 臨床見学実習
- (2) 臨床実習
- (3) 総合臨床実習

H 総合理学療法研究

- (1) 理学療法研究法
- (2) 卒業研究

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。(履修表を添付する。)

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」, 「優秀(Very Good)」, 「良好(Good)」の3段階で示す。

| 成績評価 | 数値変換 |
|---------------|------|
| S (秀: 90点以上) | 4 |
| A (優: 80~89点) | 3 |
| B (良: 70~79点) | 2 |
| C (可: 60~69点) | 1 |

| 学習の成果 | 評価基準値 |
|------------------|-----------|
| 極めて優秀(Excellent) | 3.00~4.00 |
| 優秀(Very Good) | 2.00~2.99 |
| 良好(Good) | 1.00~1.99 |

各項目の学習方法は別紙「プログラムの教育・学習方法」に記す

○知識・理解

1. 一般教養に関する知識・理解
2. 基礎医学に関する知識・理解
病因病態に関する知識・理解
3. リハビリテーション医学・理学療法学に関する知識・理解

○能力・技能

1. 基礎医学に関する知識・理解の展開
2. リハビリテーション医学・理学療法学に関する知識・理解の展開

○総合的な力

1. 生命倫理に対する判断力
2. 医療チーム・研究チームの一員として協同する能力と態度
3. 研究能力及び自己教育力

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属方法、時期等）

○目的

理学療法に関連した保健・医療・福祉分野での疑問点に対して、科学的根拠に基づいた問題解決能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。

○概要

① 研究活動に求められる態度

将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。

② 研究活動を学ぶ

将来、研究を自ら実施できるようになるために研究課題の達成までの研究プロセスを体験し研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。

③ 知的好奇心を育む

研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。

○配属時期と研究室配属方法

4年次進級時に配属する。研究室配属方法は別途定める。

10. 責任体制

○PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)）

理学療法学プログラムは、評価委員会(カリキュラムや講義内容などに関する教員の評価検討・対処を担当)、教務委員会(到達目標達成度など学生の評価検討・対処を担当)を設置し、理学療法学専攻長の主導、責任のもと、同プログラム担当教員全員が連携、協力して実施する。

教養教育科目履修基準表

医学部保健学科理学療法専攻

| 区分 | 科目区分 | 要修得 単位数 | 授業科目等 | 単位数 | 履修区分 | 履修年次(注1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------------|--|-------------------|---------------|-----------------|----------------|----------|------|-----|---|-----|---|-----|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | | | | | | | | | | | | |
| 教 養 共 通 教 育 科 目 | 教養ゼミ | 2 | 教養ゼミ | 2 | 必修 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 平和科目 | 2 | | 2 | 選択必修 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | パッケージ別科目 | 6 | 選択したパッケージから | 各2 | 選択必修 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 外国語科目 | 英語(注2) | コミュニケーション基礎 | 2 | コミュニケーション基礎 I | 1 | 必修 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | コミュニケーション基礎 II | 1 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 英語(注2) | コミュニケーション I | コミュニケーション I A | 2 | 1 | 必修 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | コミュニケーション I B | 2 | 1 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 英語(注2) | コミュニケーション II | コミュニケーション II A | 2 | 1 | 必修 | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | コミュニケーション II B | 2 | 1 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 英語(注2) | コミュニケーション III | コミュニケーション III A | 2 | 1 | 選択必修 | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | コミュニケーション III B | | 1 | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | コミュニケーション III C | | 1 | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 上記3科目のうちから2科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初修外国語 (ドイツ語, フランス語, スペイン語, ロシア語, 中国語, 韓国語, アラビア語のうちから1言語選択) | ベーシック外国語 I から2科目 | (0) | | 1 | 自由選択 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ベーシック外国語 II から2科目 | (0) | | 1 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 情報科目 | | (0) | 情報活用基礎 | 2 | 自由選択 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 情報活用演習 | 2 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 領域科目(注3) | | 2 | 脳と行動の科学 | 2 | 必修 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 倫理学A | 2 | 選択必修 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 倫理学B | 2 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 現代社会学A | 2 | 選択必修 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 現代社会学B | 2 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (0) | すべての領域から(注4) | 1又は2 | 自由選択 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 健康スポーツ科目 | (0) | | | 1又は2 | 自由選択 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基盤科目(注4) | 4 | | 医療従事者のための心理学 | 2 | 必修 | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 統計学B | 2 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | 一般物理学(注5) | 2 | 選択必修 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 細胞科学(注6) | 2 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 生物学実験法・同実験 | 2 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 0 | 初修物理学 | 2 | (注7) | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 0 | 初修生物学 | 2 | (注7) | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0 | 数学基礎概論 | 2 | (注7) | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 必修・選択必修科目小計 | 32 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 自由選択科目小計 | 8 | (注8) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 教養教育科目合計 | 40 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

注1: ○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により開設期が異なる場合があるので、学生便覧の教養教育開設授業科目一覧で確認すること。

注2: 短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位(8単位)に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細は、学生便覧に掲載の教養教育の英語に関する項を参照のこと。

注3: 高等学校で生物を履修していない者は、自然科学領域の「生物の世界」及び複合領域の「科学史A」又は「科学史B」を履修することが望ましい。

注4: 履修基準表で指定されていない基盤科目の単位を修得した場合、又は履修基準表で指定された基盤科目の選択必修科目のうち4単位を超えて修得した場合は、2単位まで領域科目を履修したものとみなす。

注5: 高等学校で物理を履修していない者は履修することが望ましい。

注6: 高等学校で生物を履修していない者は履修することが望ましい。

注7: 「初修物理学」、「初修生物学」、「数学基礎概論」の単位を修得すべき者は、保健学科において指定する。ただし、卒業要件単位には含まない。

注8: 自由選択科目は、初修外国語、情報科目、領域科目及び健康スポーツ科目の中から合計8単位以上を修得すること。

理学療法学プログラムにおける学習の成果
評価項目と評価基準との関係

| 学習の成果 | | | 評価基準 | | |
|-------|-----|-------------------------------|--|--|--|
| 評価項目 | | | 極めて優秀(Excellent) | 優秀(Very Good) | 良好(Good) |
| 知識・理解 | (1) | 一般教養に関する知識・理解 | 各コースにおいて該当する理学療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。各コースについて、他の項目と関連付けて応用的な説明ができる。 | 各コースにおいて該当する理学療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。各コースについて、他の項目と関連付けて説明ができる。 | 各コースにおいて該当する理学療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。各コースについて、基本的な説明ができる。 |
| | (2) | 基礎医学に関する知識・理解 | | | |
| | (3) | リハビリテーション医学・理学療法学に関する知識・理解 | | | |
| 能力・技能 | (1) | 基礎医学に関する知識・理解の展開 | 各コースで行われる講義において、 1. 該当する理学療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。各コースについて、他の項目と関連付けて応用的な説明ができる。 各コースで行われる演習・実習において、 1. 演習・実習の目的を理解し、得られる結果を論理的に考察することができ、レポートを作成することができる。 さらに、予想された以外の結果に対しても考察を加えることができ、新しい作業仮説を構築することができる。 2. 実習に対する試問が行われた際には、90%以上の回答率で答えることができる。 | 各コースで行われる講義において、 1. 該当する理学療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。各コースについて、他の項目と関連付けて説明ができる。 各コースで行われる演習・実習において、 1. 演習・実習の目的を理解し、得られる結果を論理的に考察することができ、レポートを作成することができる。さらに、予想された以外の結果に対しても考察を加えることができる。 2. 実習に対する試問が行われた際には、80%以上の回答率で答えることができる。 | 各コースで行われる講義において、 1. 該当する理学療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。各コースについて、基本的な説明ができる。 各コースで行われる演習・実習において、 1. 演習・実習の目的を理解し、得られる結果を論理的に考察することができ、レポートを作成することができる。 |
| | (2) | リハビリテーション医学・理学療法学に関する知識・理解の展開 | | | |
| 総合的な力 | (1) | 生命・倫理に対する判断力 | 臨床実習の場や研究実施において、生命・倫理を理解し、実際にこれらの判断を適切に行わせる。 | 臨床実習の場や研究実施において、生命・倫理を理解し実際にどのような状況下でこれらの判断力が行使されるかを理解する。 | これに関する到達目標を理解している。 |
| | (2) | 医療チーム・研究チームの一員として協働する能力と態度 | 1. 他の医療スタッフ、研究スタッフとの役割分担を理解し、医療チーム、研究チームの一員として相応しい態度を積極的にとることができる。 2. 課題達成のために、他者の意見を理解し、チームの一員として相応しい態度を自ら率先してとることができる。 | 1. 他の医療スタッフ、研究スタッフとの役割分担を理解し、医療チーム、研究チームの一員として相応しい態度をとることができる。 2. 課題達成のために、他者の意見を理解し、チームの一員として相応しい態度をとることができる。 | 1. 医療チーム、研究チームの一員としての態度をとることができる。 2. 課題達成のために、他者の意見を理解し、チームの一員として他者の意見や行動を妨げない態度をとることができる。 |
| | (3) | 研究能力及び自己教育力 | 1. 研究内容を理解し、その達成に向けて積極的に取り組むことができる。 2. 問題点を自ら進んで解決することができる。 | 1. 研究内容を理解し、その達成に向けて積極的に取り組むことができる。 2. 問題点を自ら進んで解決しようと努力することができる。 | 1. 研究内容を理解し、その達成に向けて、指示に従った行動をとることができる。 |

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムは、保健・医療・福祉の分野において理学療法士として活躍するための専門的知識や技術はもとより、豊かな人間性や幅広い教養を身につけ、知的好奇心と知的行動力を養い、生涯にわたって自ら学び続けるしなやかで創造的な人材を育成するため、1年次は東広島キャンパ

| | 教養教育到達目標 | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | |
|--------|---------------------------------|--|---|--|---|---|---|---|-----------|---------|
| | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| 知識・理解 | 1. 一般教養に関する知識・理解 | 各科目に応じた基礎学問の論理的骨格や体系及び学問形成に必要な知識・技術を理解・修得(基) | 初修物理学(△) 初修生物学(△) 数学基礎概論(△) 平和科目(○) 現代社会学A(○) 倫理学A(○) 教養ゼミ(◎) 情報活用基礎(△) ベーシック外国語 I (△) | 現代社会学B(○) 倫理学B(○) 統計学B(◎) 情報活用演習(△) | 保健英語(△) | | 応用統計学(◎) | | | |
| | 2. 基礎医学に関する知識・理解 | 各科目に応じた基礎学問の論理的骨格や体系及び学問形成に必要な知識・技術を理解・修得(基) | 初修物理学(△) 初修生物学(△) 数学基礎概論(△) 健康スポーツ科目(△) 脳と行動の科学(◎) パッケージ別科目(○) 現代社会学A(○) 倫理学A(○) 教養ゼミ(◎) 情報活用基礎(△) ベーシック外国語 I (△) 人間発達学(◎) | パッケージ別科目(○) 現代社会学B(○) 医療従事者のための心理学(◎) 統計学B(◎) 細胞科学(○) 情報活用演習(△) 人体構造学I(◎) 生理機能学I(◎) リハビリテーション概論(◎) | 人体構造学II(◎) 生理機能学II(◎) リハビリテーション内科学I(◎) リハビリテーション整形外科学 リハビリテーション神経内科学 発達障害学(◎) 病理学(◎) 栄養学(△) 理学療法概論(◎) 基礎理学療法学(◎) 身体運動学(◎) 機能能力診断学特論(△) 生活環境制御学(◎) | リハビリテーション精神医学 外科系障害学(◎) リハビリテーション内科学II リハビリテーション整形外科学 機能能力診断学(◎) 運動系理学療法学(◎) 物理療法学(◎) 社会福祉学(△) 老年障害学(◎) | リハビリテーション精神医学各論 臨床運動学(◎) 小児機能診断学総論(◎) 小児機能診断学各論(◎) リハビリテーション診断学(◎) 小児神経系理学療法学(◎) 成人神経系理学療法学(◎) 内部障害リハビリテーション学(◎) 補装具学(◎) 生活技術学(◎) スポーツ医学総論(◎) スポーツ医学各論(◎) スポーツ外傷理学療法学総論(◎) スポーツ外傷理学療法学各論(◎) トレーニング科学(△) コンディショニング科学(△) 地域理学療法学(△) | 理学療法研究法(◎) | | |
| | 3. リハビリテーション医学・理学療法に関する知識・理解 | 各科目に応じた基礎学問の論理的骨格や体系及び学問形成に必要な知識・技術を理解・修得(基) | 初修物理学(△) 初修生物学(△) 数学基礎概論(△) 健康スポーツ科目(△) 脳と行動の科学(◎) 平和科目(○) パッケージ別科目(○) ベーシック外国語 I (△) 人間発達学(◎) | パッケージ別科目(○) 医療従事者のための心理学(◎) 統計学B(◎) 細胞科学(○) 人体構造学I(◎) 生理機能学I(◎) リハビリテーション概論(◎) | 人体構造学II(◎) 生理機能学II(◎) リハビリテーション内科学I(◎) リハビリテーション整形外科学 リハビリテーション神経内科学 発達障害学(◎) 病理学(◎) 栄養学(△) 理学療法概論(◎) 基礎理学療法学(◎) 身体運動学(◎) 機能能力診断学特論(△) 生活環境制御学(◎) | リハビリテーション精神医学 外科系障害学(◎) リハビリテーション内科学II リハビリテーション整形外科学 機能能力診断学(◎) 運動系理学療法学(◎) 物理療法学(◎) 社会福祉学(△) 老年障害学(◎) | リハビリテーション精神医学各論 臨床運動学(◎) 小児機能診断学総論(◎) 小児機能診断学各論(◎) リハビリテーション診断学(◎) 小児神経系理学療法学(◎) 成人神経系理学療法学(◎) 内部障害リハビリテーション学(◎) 補装具学(◎) 生活技術学(◎) スポーツ医学総論(◎) スポーツ医学各論(◎) スポーツ外傷理学療法学総論(◎) スポーツ外傷理学療法学各論(◎) トレーニング科学(△) コンディショニング科学(△) 地域理学療法学(△) | 理学療法研究法(◎) | | |
| 能力・技能 | 1. 基礎医学に関する知識・理解の展開 | 各科目に応じた基礎学問の論理的骨格や体系及び学問形成に必要な知識・技術を理解・修得(基) | | | 生理機能学特論(◎) | 生理機能学実習(◎) 人体構造学実習I(◎) 人体構造学実習II(◎) 身体運動学実習(◎) 生活環境制御学実習(◎) | 機能能力診断学実習(◎) 運動系理学療法学実習(◎) 成人神経系理学療法学演習(◎) 物理療法学実習(◎) | 小児神経系理学療法学演習(◎) 内部障害リハビリテーション学実習(◎) 補装具学演習(◎) 臨床運動学演習(◎) 生活技術学実習(◎) スポーツ外傷理学療法学実習(◎) | | |
| | 2. リハビリテーション医学・理学療法に関する知識・理解の展開 | 各科目に応じた基礎学問の論理的骨格や体系及び学問形成に必要な知識・技術を理解・修得(基) | | | 生理機能学特論(◎) | 生理機能学実習(◎) 人体構造学実習I(◎) 人体構造学実習II(◎) 身体運動学実習(◎) 生活環境制御学実習(◎) | 機能能力診断学実習(◎) 運動系理学療法学実習(◎) 成人神経系理学療法学演習(◎) 物理療法学実習(◎) | 小児神経系理学療法学演習(◎) 内部障害リハビリテーション学実習(◎) 補装具学演習(◎) 臨床運動学演習(◎) 生活技術学実習(◎) スポーツ外傷理学療法学実習(◎) | | |
| 総合的な能力 | 1. 生命倫理に対する判断力 | 各学問領域が文化・社会とどのように関わっているかを理解(領2) | | | 臨床見学実習(◎) | | | 臨床実習(◎) | 総合臨床実習(◎) | 卒業研究(◎) |
| | 2. 医療チーム・研究チームの一員として協働する能力と態度 | 各科目に応じた基礎学問の論理的骨格や体系及び学問形成に必要な知識・技術を理解・修得(基) | | | 臨床見学実習(◎) | | | 臨床実習(◎) | 総合臨床実習(◎) | |
| | 3. 研究能力及び自己教育力 | 各科目に応じた基礎学問の論理的骨格や体系及び学問形成に必要な知識・技術を理解・修得(基) | | | | | | | | 卒業研究(◎) |

教養科目 専門基礎 専門科目 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目
 ※ターム科目の区別は、科目名の前に記載する。
 第1ターム:1T 第2ターム:2T 第3ターム:3T 第4ターム:4T
 (例)第1ターム開講の科目 → (1T)コミュニケーションI

理学療法学プログラム担当教員リスト

| 教員名 | 職名 | 内線番号 | 研究室 | メールアドレス |
|--------|-----|------|------------------------|------------------------------|
| 浦邊 幸夫 | 教授 | 5405 | スポーツリ ハビリテー ション学 | yurabe@hiroshima-u.ac.jp |
| 川真田 聖一 | 教授 | 5410 | 生体構造学 | kawamat@hiroshima-u.ac.jp |
| 新小田 幸一 | 教授 | 5415 | 生体運動・ 動作解析学 | shinkoda@hiroshima-u.ac.jp |
| 出家 正隆 | 教授 | 5430 | 運動器機能 医科学 | snm3@hiroshima-u.ac.jp |
| 濱田 泰伸 | 教授 | 5420 | 生体機能解 析制御科学 | hirohamada@hiroshima-u.ac.jp |
| 弓削 類 | 教授 | 5425 | 生体環境適 応科学 | ryuge@hiroshima-u.ac.jp |
| 関川 清一 | 准教授 | 5426 | 生体機能解 析制御科学 | sekikawa@hiroshima-u.ac.jp |
| 高橋 真 | 講師 | 5421 | 生体運動・ 動作解析学 | mako2@hiroshima-u.ac.jp |
| 藤田 直人 | 講師 | 5423 | 運動器機能 医科学 | fujitan@hiroshima-u.ac.jp |
| 阿南 雅也 | 助教 | 5417 | 生体運動・ 動作解析学 | anan@hiroshima-u.ac.jp |
| 大鶴 直史 | 助教 | 5406 | 生体環境適 応科学 | ootsuru@hiroshima-u.ac.jp |
| 黒瀬 智之 | 助教 | 5412 | 生体構造学 | kurose@hiroshima-u.ac.jp |
| 前田 慶明 | 助教 | 5406 | スポーツリ ハビリテー ション学 | norimmi@hiroshima-u.ac.jp |

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））

プログラムの教育・学習方法

○知識・理解

身につく知識・技能・態度等

1. 人体の構造に関する知識・理解
2. 生体の機能に関する知識・理解
3. 病因・病態に関する知識・理解
4. 身体の発達と障害に関する知識・理解
5. リハビリテーション医学に関する知識・理解
6. 身体運動システムに関する知識・理解
7. 身体徴候・機能診断に関する知識・理解
8. 理学療法技術に関する知識・理解
9. スポーツ医学・理学療法に関する知識・理解
10. 保健・社会医療システムに関する知識・理解
11. 英語によるコミュニケーション能力に関する知識・理解

教育・学習の方法

1. は、専門基礎科目A「人体の構造」－(1)・(2)の講義を通して学生に修得させる。
2. は、専門基礎科目B「生体の機能」－(1)～(3)・(5)の講義を通して学生に修得させる。
3. は、専門基礎科目C「病因・病態」－(1)～(8)の講義を通して学生に修得させる。
4. は、専門基礎科目D「身体の発達と障害」－(1)～(4)の講義を通して学生に修得させる。
5. は、専門基礎科目E－(1)の講義を通して学生に修得させる。
6. は、専門科目B「身体運動システム」－(1)～(3)の講義を通して学生に修得させる。
7. は、専門科目C「身体徴候・機能診断」－(1)～(5)の講義を通して学生に修得させる。
8. は、専門科目D「理学療法技術」－(1)・(3)・(5)・(7)・(9)・(11)・(13)・(15)の講義を通して学生に修得させる。
9. は、専門科目E「スポーツ医学・理学療法」－(1)～(6)の講義を通して学生に修得させる。
10. は、専門科目F「保健・社会医療システム」－(1)の講義を通して学生に修得させる。
11. 専門基礎科目F「英語によるコミュニケーション能力」－(1)の講義を通して学生に修得させる。

評価

知識と理解は、試験、課題に対するレポートを通して評価する。

○実践的能力・技能

身につく知識・技能・態度等

1. 人体の構造に関する知識・理解の展開
2. 生体の機能に関する知識・理解の展開
3. 身体運動システムに関する知識・理解の展開
4. 身体徴候・機能診断に関する知識・理解の展開
5. 理学療法技術に関する知識・理解の展開
6. スポーツ医学・理学療法に関する知識・理解の展開
7. 保健・社会医療システムに関する知識・理解の展開

教育・学習の方法

1. は、専門基礎科目A「人体の構造」－(3)・(4)の実習を通して学生に獲得・発展させる。
2. は、専門基礎科目B「生体の機能」－(4)の実習を通して学生に獲得・発展させる。
3. は、専門科目B「身体運動システム」－(1)～(5)の講義，演習，実習を通して学生に獲得・発展させる。
4. は、専門科目C「身体徴候・機能診断」－(1)～(6)の講義，実習を通して学生に獲得・発展させる。
5. は、専門科目D「理学療法技術」－(1)～(16)の講義，演習，実習を通して学生に獲得・発展させる。
6. は、専門科目E「スポーツ医学・理学療法」－(1)～(7)の講義，実習を通して学生に獲得・発展させる。
7. は、専門科目F「保健・社会医療システム」－(2)の講義，演習を通して学生に獲得・発展させる。

評価

知的能力・技能は、課題発表，レポートや試験における展開力，実験および実習における知識展開力により評価する。

○ 知的能力・技能

身につく知識・技能・態度等

1. 保健・医療に関する情報を収集・評価できる
2. 代表的な身体機能・生体反応の測定評価ができる
3. 理学療法に関する基本的手技が実行できる
4. 研究チーム，医療チームの一員としての活動する能力を持つ

教育・学習の方法

1. 及び 2. は，専門科目C「身体徴候・機能診断」の実習，専門科目D「理学療法技術」の演習・実習，専門科目E「スポーツ医学・理学療法」の実習および，専門科目G「臨床実習」－(2)・(3)を通して学生に獲得・展開させる。
3. は，専門科目D「理学療法技術」の演習・実習，専門科目E「スポーツ医学・理学療法」の実習および，専門科目G「臨床実習」－(3)を通して学生に獲得・展開させる。
4. は，専門科目G「臨床実習」－(1)・(2)の実習および専門科目H「総合理学療法研究」－(1)・(2)を通して学生に獲得・展開させる。

評価

演習・実習・臨床実習中の態度や手技，提出されたレポートや実習報告書の内容，研究や実習の発表における内容や態度，教員や実習指導者との議論，口述試験を通じて評価する。

○総合的な力

身につく知識・技能・態度等

1. 医療・理学療法の倫理に対する判断力
2. 医療・保健福祉・理学療法の問題に対するコミュニケーション能力
3. 統計学的解析能力
4. 医療・保健福祉・理学療法の問題に対する積極的態度をとることができる
5. 総合的かつ科学的な問題解決態度をとることができる
6. チーム医療・チーム研究において協調的な態度をとることができる

教育・学習の方法

1. は、専門科目A「理学療法をとらえる」－(1)において基礎を学び、総合臨床実習を通じて実践的スキル・能力を修得する。
2. は、専門科目C「身体徴候・機能診断」において基礎を学び、総合臨床実習を通じて実践的スキル・能力を修得する。
3. は、専門基礎科目G「統計学的解析能力」－(1)および専門科目H「総合理学療法研究」－(1)において基礎を学び、卒業研究を通して実践的スキル・能力を修得する。
4. は、各コースの演習、実習および専門科目G「臨床実習」－(1)～(3)及び卒業研究を通じて実践的スキル・能力を修得する。
5. は、専門科目G「臨床実習」－(1)～(3)及び専門科目H「総合理学療法研究」－(2)を通じて実践的スキル・能力を修得する。
6. は、専門科目G「臨床実習」－(1)～(3)及び専門科目H「総合理学療法研究」－(2)を通じて実践的スキル・能力を修得する。

評価

演習・実習・臨床実習中の態度や手技、提出されたレポートや実習報告書の内容、研究や実習の発表における内容や態度、教員や実習指導者との議論、口述試験を通じて評価する。